



第275回 都市懇サロン レポート	『リビングラボの可能性』 ～参加・協働と/から共創・協創～		
講師	東京都立大学 法学部 教授 大杉 覚 さん	開催日	2023年11月14日(火) 18:30～20:30
講師 プロフィール	<p>東京大学大学院総合文化研究科(学術)取得 (財)行政管理研究センター研究員、日本学術振興会特別研究員、成城大学法学部専任講師、東京都立大学法学部助教授などを経て現職</p> <p>その間、オックスフォード大学客員研究員、ジョージタウン大学客員研究員などを務める</p> <p>総務省地域づくり人材の養成に関する研究会座長、同総合的なメンタルヘルス対策に関する研究会座長、自治大学校講師、(一財)地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」主任講師などを多数歴任</p>		
お話の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●リビングラボ(LL)とは ⇒ 明確な定義なし(方法論の不在) YOKOHAMA リビングラボサポートオフィスの定義(「多様な主体による協働」) ●LLの特質 ⇒対極的: Living(生活、日常性、協力、共感) ⇔ Lab(実験室、仮想、専門知、因果推論) VUCA(変動性 Volatility 不確実性 Uncertainty 複雑性 Complexity 不透明性 Ambiguity) コロナリセットと普遍的価値の重視(持続可能性、多様性・包摂性) ●日本でのLLの動向 ⇒GoogleトレンドによるLL検索状況(2009年頃に出現/2016年以降上昇傾向) ●LLの類型 ⇒Marvinら(2018)による類型(戦略型 Strategic 市民型 Civic 有機型 Organic) ●住民参加・協働とLL ⇒担い手不足、世代交代、NPOの継承問題(団塊世代の高齢化、若い世代との意識のずれ) 代表制民主主義の補完(参加民主主義) オープンイノベーション(共創)、コクリエーション(協創) ●参加・協働と共創・協創(パートナーシップの深化、マルチステークホルダー) ●LLの事例 ○長野県松本市「松本ヘルス・ラボ」: 戦略型(医療費抑制、デジタル化、健康投資) 松本ヘルス・ラボ 健康とヘルスケア産業振興の相乗効果を創り出す拠点 (m-health-lab.jp) ○東京都日野市「日野リビングラボ」: 戦略型・市民型(産官学連携、多摩平の森) 日野リビングラボのご案内 日野市公式ホームページ (hino.lg.jp) ○神奈川県鎌倉市「鎌倉今泉台リビングラボ」: 戦略型・市民型・有機型(薬のパッケージ) 鎌倉リビングラボ (cc-aa.or.jp) ○新潟県小千谷市「at!おぢや」: 市民型(ワークショップ多用、図書館(病院跡地)) 小千谷リビングラボ「at!おぢや」・小千谷市ホームページ (city.ojiya.niigata.jp) ○横浜市「横浜リビングラボ」: 有機型(行政区単位で展開) 一般社団法人YOKOHAMAリビングラボサポートオフィス (livinglabsupportoffice.yokohama) ○東京都世田谷区「おやまちリビングラボ」: 有機型(行政の関与なし) OYAMACHI LIVING LAB 暮らしにきづく 未来をつくる ●おわりに: LLと地域人財育成の期待(「楽しむ!」による「誘い込み」「誘い合わせ」) 		
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングラボの定義 ⇒あいまいなもの、ゴールが不明確(ワークショップも) ・リビングラボの特質 ⇒振幅が大きい(いいとこどりが可能) 多様な参加者(コアなメンバー ⇔ 新しいメンバー) コミュニティプラン(地区まちづくり、社会実験)に向いている 		
記録者の ひとこと	<p>今回リビングラボ(LL)を初めて知った。明確な定義は無く、日常生活や職場(リビング)を実験室(ラボ)に見立て、多様な人々が集まって地域課題の解決に向けた新しい発想を得る場所と理解した。「楽しむ」ことにより地域の人材育成が期待される手法と感じた。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行》</p>		